



第375号 平成21年10月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館 2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 長村吉朗

学校との緊急連絡方法の確保を

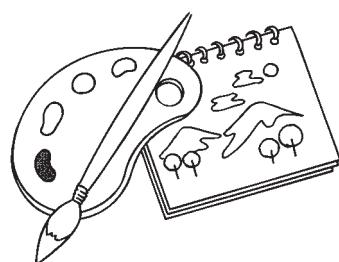
会長 長村吉朗

7月25日に京都市養護教育研究会との懇談会が開催されました。当日の出席者は、養護教育研究会側は稲葉章江会長他4名と教育委員会より服部指導主事、学校医会側は私の他奥村、平位両副会長と林専務理事、竹内、福持両常任理事、眼科学校医会より佐藤幹事と耳鼻科医会星谷、鈴木理事を含め合計15名でした。学校医にとって養護教諭は最もトラブルの発生しやすい関係です。そのため例年この懇談会では養護教諭側より多くの問題点が指摘され、学校医会側としては回答に苦慮することの多い会です。しかし、本年も以前に比べ指摘される点が少なく、これまでの懇談会の成果が出てきたのではないかと思っています。

協議事項の内容ですが、学校医会側からはこのところのインフルエンザの流行に際し問題となってきている、学校との緊急連絡方法の確保です。教職員の間の連絡網はあるのですが、その中に学校医は入っておりません。今後は出来るだけ早く学校との緊急時の連絡方法の確認を行っておいていただきたいと思います。次に養護教育研究会からの問題点ですが、例年のことですが内科健診についての問題提起となりました。今年は健康診断時における服装の問題は提示されず、その必要性が理解されたためか、あきらめなのかどちらでしょうか。問題点としては、学校側の日程や時間の制限が近年非常に厳しくなり、検診日程を決めることが困難となっている点や、開始時間に遅刻する等の問題が提示されました。又、予防接種・既往歴調査票が本年より全市的に使用開

始されました。特に中学では母子手帳の紛失などで記載がされないケースがあるなど、現場での困難な事情が報告されました。しかし来年以降は訂正や加筆をする場合を除き新1年のみの記載確認となるためその苦労も軽減されること、又その重要性を保護者や児童生徒に教育していくことの必要性を説明いたしました。その他には、健康相談が十分なされていないとの指摘等、私には耳の痛い指摘がありました。

これら細かい点ではありますが、現在ある問題点に対し協議を行うことが出来、非常に建設的な意見交換が行えたと考えております。わずかな食い違い、行き違いや誤解から養護教諭との関係を損ねることがないよう、問題がありましたら個人間で議論するよりは学校医会にその判断をゆだねて頂いた方が解決がスムーズに行くのではないかと考えておりますので、そのような場合には学校医会までご連絡頂けると良いかと考えております。



お詫びと、お礼と、お願ひ

会長 長村吉朗

校医ニュース9月号に「新型インフルエンザに係わる学級閉鎖等の基準」を掲載しましたところ、幾人かの先生方よりおしかりとご指摘を受けました。わたくしが気づかなかった点（気づかないのが変でした）をご指摘いただきましたことに感謝申し上げると共に、校医ニュースをしっかり読んでいただいている事に感謝申し上げ、今後もご指導いただきますようお願い申し上げます。

ご指摘いただいた点とは「新型インフルエンザQ&A」の内容についてです。この文章自体は京都市教育委員会が作成したものですが、わたくしも発行前に目を通し確認同意をしておりますので、内容につきましてはわたくしに責任があると痛感しております。同時に、ご指摘いただきました問題点を教育委員会に連絡し、今後機会がある中で（新型インフルエンザに関する注意点等の連絡は、今後も非常に多いと考えております）訂正及び修正していきたいと考えております。

第1点はA1で「季節性インフルエンザに近く、低病原性のため・・・」との文章の中の低病原性との文言です。確かに新型インフルエンザは低病原性とは言えず、世界的には0.5%と言う死亡率の報告を見ております。しかしながら日本におきましては

タミフル等の早期使用や栄養状態、医療体制などの為か、これだけの死亡率には至っていないと考えております。わたくしの医院で診療する中でも、軽微な発熱や症状のためインフルエンザと診断することが検査で確認するまではためらわれる症例がいくつもありました。多くの先生方も同様の経験をされているのではないかでしょうか。これらの点よりも、いたずらに恐怖心をおおる表現を避け低病原性との表現を容認したものです。しかしながら、医学的にはこの様な表現が間違っていることは言うまでもありません。

次は、A4の中で「根本的な治療法はなく、タミフルやリレンザ等を利用して、熱や咳を抑えるなどの対処療法が用いられています。・・・」と言う下りです。これには多くの先生方からおしかりをいただきました。ご指摘のとおり間違っています。タミフルやリレンザはウイルスの増殖を抑えることによる治療法で、咳や熱を抑えるのはその結果であり対処療法ではありません。

いずれの点も上に述べましたように、次の機会には訂正したいと考えております。今後もお気付きの点がございましたら、ご指摘いただきますようお願い申し上げます。

京都市立学校における学級閉鎖の状況

会長 長村吉朗

この原稿が先生方の目にふれるのは、10月の下旬になると思います。しかし、この原稿を書き出したのは9月13日ですので少し10月の現状とは合わないかもしれません。あくまで、その時点での情報と想像で書いていますので、お許しください。そしてそれに書き足す形で文章を作って行きますので、予想が外れたのかどうかも分かると思います。お笑いください。なお、表につきましては校正ぎりぎりまでの情報を掲載しております。

9月11日記 表1に京都市立学校における学級閉鎖状況を掲載いたします。これはその日に学級閉鎖を決めた学校の数ではなく、その日に閉鎖している学校数と学級数を示します。京都市では8月21日（金）より夏休み明けを迎えた学校があり（自分の頃の夏休みを思うと、本当にかわいそうです）、その学校が開始早々24日に学級閉鎖となりました。この時点で京都市の多くの学校は24日、25日から夏休み明けとなることが分かっておりましたので、その

後の爆発的に感染が拡大するのではないかと心配いたしました。8月25日には9月号にも掲載しました学級閉鎖の基準も教育委員会とともに決定し、それに対応しようとしたわけです。8月31日にはその基準も全校に配布し、それ以降は原則として閉鎖期間は4日間となっております。閉鎖学校数・学級数とともに31日の週より増加を示しておりますが予想の範囲内で、恐れていたねずみ算式の増え方とはなりませんでした。またインフルエンザの感染もクラスを超えて拡大することは少なく、多くの学校では1クラスのみの閉鎖となっております。4日間の休みの為、週が代わるとほとんど全ての閉鎖学校・学級は以前とは変わっております。従って表2に示します欠席者数が月曜日には多いにもかかわらず、閉鎖学校・学級数は火曜日以降に増加しています。

次に、表2に京都市立学校のインフルエンザ感染および発熱による欠席者の状況を示します。これは

学校に連絡があった、もしくは把握できているインフルエンザ、インフルエンザの疑いおよび発熱による欠席者（発熱の基準は決めておりません）の総数であり、実際はさらに多いかもしれません。以後これらの合計を、インフルエンザ疑い数（以下疑い数と略す）と呼ぶこととします。この集計は8月24日の夏休み明け早々の学級閉鎖の現実から、27日以降全学校から報告を受けるようにしたもので、学校側・教育委員会側にとってきわめて負担の大きい集計作業です。これをみましてもインフルエンザ疑い者のいる学校数は徐々に増えているものの、欠席児童数はそれほどひどく増加していないことにお気づきでしょう。そしてその数は月曜日に多い傾向が見られます。もっともこの数には学級閉鎖中の数は含まれていませんので、火曜日以降の学級閉鎖の増加の影響かもしれません。

またこれらの表からは分かりませんが、報告を受

表1 京都市立学校における学級閉鎖状況

日	8 /24	25	26	27	28	29	30	31	9/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
曜 日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
学校数	1	1	2	2	3	—	—	9	9	12	15	14	—	—	20	19	23	23	13	—	—	20	22	26	26	12	—	—
閉鎖学級数	1	1	2	2	3	—	—	15	15	20	26	21	—	—	30	26	31	31	14	—	—	33	35	44	44	12	—	—

日	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10 /1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
曜 日	祝	祝	祝	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日
学校数	—	—	—	10	11	—	—	7	7	11	11	20	—	—	32	38	41	43	26	—	—	—	33	54	54	44	—	—
閉鎖学級数	—	—	—	15	16	—	—	14	9	19	19	36	—	—	81	92	100	112	65	—	—	—	89	152	155	107	—	—

表2 京都市立学校のインフルエンザ感染および発熱による欠席者の状況

日	8 /24	25	26	27	28	29	30	31	9/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
曜 日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
学校数				13	24	—	—	37	31	30	43	53	—	—	61	55	61	56	64	—	—	69	57	54	62	65	—	—
欠席児童数				38	62	—	—	160	125	166	157	219	—	—	378	373	226	293	293	—	—	359	383	381	334	471	—	—

日	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10 /1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
曜 日	祝	祝	祝	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日
学校数	—	—	—	91	80	—	—	70	76	69	76	76	—	—	84	92	104	89	99	—	—	—	117	138	129	134	—	—
欠席児童数	—	—	—	487	382	—	—	246	279	260	294	335	—	—	373	520	665	581	787	—	—	—	1106	891	803	829	—	—

けた学校の名前からは、中京の西部、右京、西京に感染が多く見られる傾向にあると思われ、人口の割に伏見、山科のインフルエンザ疑い数が比較的少なく、今後伏見の西部へと感染が拡大し、逆時計回りに京都市では感染が広がっていくのではないかと予想します。また感染拡大はこのまま徐々に増加していくと予想します。さて当たるでしょうか。あるところを超えると急激に感染拡大が起こるようなことがないことを祈ります。

9月17日記 今のところ感染報告を出している学校数は徐々に増えており、感染は拡大していることが想像されますが、報告人数は微増で爆発的な感染拡大でなく、治っていくものと新しく感染しているものの微妙な釣り合い状態にあると思われます。このまま推移すれば多くの医師の最も歓迎する、免疫獲得が比較的早く進みかつ医療機関に対する負担もそれほどでない、と言う状態なのでしょうが、多分

現実はそんなに甘くなくまもなく爆発的な感染拡大を迎えることになると予想いたします。それに対しシルバーウィーク（SWと略す）がどのように影響するのか、全校一斉の学校閉鎖と言うべき状態が5日間、常識的には感染拡大は抑えられるはずなのですが・・・

9月25日記 休み明けと共に学級閉鎖数は予想通りやや減少し、学校の名前も大きく変わりました。予想では反時計回りに伏見区に拡大していくと予想していたのですが、もちろん人口の関係で伏見区に感染者は増えていますが、学級閉鎖を実施した学校は北区に拡大しています。時計回りに推移していくのでしょうか。ただ、感染報告学校数は休み明けで大きく増加しているのですが、報告総数はその割に大きく増えていません。予想通りSWが感染拡大防止に役立ったのではないでしょうか。明日から土・日でその効果がさらに効いてくることを祈ります。

思春期・青年期精神保健ケースマネジメント事業 平成21年度 第1回運営検討会議に出席して

常任理事 杉本英造

解決を目指します。

今回は、京都ダルクより「思春期・青年の薬物依存」と題し、京都ダルクでの薬物依存から抜け出せない事例について討論がなされました。少年期から鑑別所を経て、現在に至る状況、取り巻く周囲の環境、成人となっていく今後の方策など、貴重な症例でしたが薬物問題の複雑さを認識しました。

DARCとは Drug Addiction (依存・常習者) Rehabilitation Centerの略で、薬物依存から回復を願っている人に対し、グループセラピーを行っています。

精神的に不安定な時期にある思春期・青年期の問題行動は、薬物ばかりでなくたくさんあり、学校医会としても関係機関と協議を持てる運営検討会議は重要と考えています。

「のりピーおまえもか！」。覚醒剤取り締まり法で逮捕された酒井法子容疑者の報道には驚きと、ため息でした。大学生の覚醒剤問題が取りざたされている時期なのでなおさらです。

運営検討会議は、京都市こころの健康増進センター（京都府医師会館の隣り）が中心となり、関係機関：京都市学校医会・京都大学・京都府立医大・京都市立病院・京都家庭裁判所・京都少年鑑別所・NPO法人京都ダルク・京都市ユースサービス協会・京都府警少年サポートセンター・NPO法人京都オレンジの会・左京保健所・児童福祉センター・京都市教育委員会・文化市民局勤労福祉青少年課等、多くの関係者が出席し、近況報告を行うことから始まります。その後、最近の事例が紹介され、意見を出し合うことにより、共通認識、横の繋がりを育成し、関係機関が協力して相談および支援活動を実施し問題

第23回京都市小学校「大文字駅伝」大会 支部予選日程表

支部	日 程	開始時間	場 所	コ 一 ス	医務担当者	校医所属校	予 備 日
北 上	11月13日(金)	14:00～16:00	鴨川河川敷	北大路橋～出雲路橋	隣 義信	上賀茂小学校	11月17日(火)
北 下	11月16日(月)	14:05～15:30	鴨川河川敷	北大路橋～出雲路橋	杉山イタル	紫野小学校	11月24日(火)
上 京	11月25日(水)	14:50～16:30	鴨川河川敷	北大路橋～出雲路橋東岸	永原 宏道	乾隆小学校	11月27日(金)
中 京	11月25日(水)	14:40～16:20	鴨川河川敷	北大路橋～出雲路橋西岸	坂中 俊男	洛中小学校	11月26日(木)
下 京	11月19日(木)	14:00～15:45	梅小路公園	梅小路公園周回コース	鈴木 豪	洛友中学校	11月25日(水)
南	11月20日(金)	14:30～17:00	梅小路公園	梅小路公園周回コース	清水 忠雄	九条弘道小学校	12月 4 日(金)
左京北	11月19日(木)	14:00～16:00	宝ヶ池公園	宝ヶ池公園周回コース	福持 裕	岩倉南小学校	12月 3 日(木)
左京南	12月 1 日(火)	14:15～16:30	鴨川河川敷	出雲路橋～葵橋	十倉 孝臣	修学院第二小学校	12月 8 日(火)
東 山	11月27日(金)	14:00～16:00	鴨川河川敷	丸太町橋～荒神橋北側	岡田 温	一橋小学校	12月 2 日(水)
山 科	11月26日(木)	13:00～17:00	疏水公園	安朱橋～柳山橋周回コース	小泉 健二	小泉肛門外科医院	12月 3 日(木)
右京北	12月10日(木)	14:30～17:00	嵐山東公園	嵐山東公園周回コース	請田 修一	太秦小学校	12月11日(金)
右京南	11月19日(木)	14:30～16:00	西京極競技場	サブトラック及び公園内	請田 修一	太秦小学校	なし
西京東	12月 3 日(木)	15:00～16:45	嵐山東公園	嵐山東公園周回コース	青木修一郎	桂東小学校	12月10日(木)
西京西	11月21日(土)	9:50～13:00	小畠川河川敷	小畠川河川敷周回コース	奥村 正治	福西小学校	11月28日(土)
伏見中	11月21日(土)	13:00～15:30	伏見北堀公園	伏見北堀公園多目的広場及び武者走り園路	石川 理	石川整形外科	11月28日(土)
伏見東	11月26日(木)	14:40～16:00	池田小学校	池田小学校～山科川周辺	田里 寛	藤城小学校	12月 3 日(木)
伏見西	11月26日(木)	14:10～16:30	向島南小学校・宇治川河川敷	向島南小学校～宇治川河川敷周回コース	辻 幸子	稻荷小学校	12月 3 日(木)
国私立	11月14日(土)	10:00～11:30	宝ヶ池公園	宝ヶ池公園周回コース			なし

中国学校医事情（その5、青少年危機の1）

会長 長村吉朗

これまで今回の中国での情報をいろいろ述べてきましたが、そろそろ本題に入ろうと思います。下記に示しますのが昨年夏に見せられた文章です。日本

語訳の中に多少理解に苦しむところは有るもの、その趣旨は分かっていただけるのではないでしょか。

<共沐陽光 快楽生活> 中国青少年危機処理指導計画

事業背景

現代社会においては、自然危機、環境危機、精神危機、現代化危機が人々を左右している。現代社会に生活している人々は憂患意識を持たないと競争の激しい社会に適応できない。しかし、わが国では、青少年の危機意識はまだまだ弱く、学校では理論教育は力説しているが、実践教育による応用型学生を育成することを目標にした危機感教育はゼロと言える。

従って、目下の青少年学生全体の素質には欠陥が存在し、特に生存意識、実践能力そして意思品格などの面ではそのことが現れている。

未来に対する心配、社会経験の欠乏、危機感意識の希薄により、危機への対応の仕方が分からぬ。辛酸をなめ、苦労に耐える精神と困難を恐れない勇気に欠けている。人々の特に青少年の危機教育或いは指導は非常に重要課題となっている。

ここでは、危機の種類の中でも以下の4つについて取り上げていきたい。

- ①自然危機
- ②環境危機
- ③精神危機
- ④現代化危機

青少年の危機感教育は、困難ではあるが前もっての事業であり、経済、政治、軍事等と比較するとその現実性効果がはっきりしていないが社会の未来発展とつながっている。将来、社会の発展が良好か否かは現代教育で育成した人材の素質にある。教育界はこの現状を重視し、客観的、理性的に分析し、有効な措置を取り組んで、青少年の危機処理能力を専門的に指導すべきである。

●自然危機

わが国は、災害が頻発し、被害面が広く、災害損失が重い国家のひとつである。年平均の自然災害と人的災害による経済損失は1,000億元（1兆6000億円）以上に達する。これらの自然災害に対して、青少年はどうにして自らを救うことができるか？

2007年「中国の誇り」賞は、70歳の老人・李聖豪と10歳にも満たない4人の子供たちが受賞しま

した。洪水に取り囲まれた時に、4人の子供たちは自分の知能を生かして、櫛定橋18勇士が橋を渡る方法で、奇跡的に老人を部屋から庭へ移し、また庭の唯一安全な場所である2メートルの葡萄棚まで送って、自ら救うことに成功した。

臨機応変、知識の活用こそは、青少年が高めなければならない危機処理の能力である。

●精神危機

まもなく大学を卒業する馬加爵は・3日間に3人の同級生を殺害した。その殺人の原因是、わずかに虐められた喧嘩であった。この「馬加爵事件」は現在の青少年が普遍的に直面している精神危機であるといえる。

親が何でも子供を満足させるこの「蝶よ花よと育てられる」生活環境は青少年の「自己を中心とする」生活態度を形成し、心理忍耐力が足りないため・挫折に会うと耐えられなくなり極端に走ってしまう。青少年の心理健康は危機に面している。

●環境危機

現代社会の急速な発展に伴い、社会環境は日々複雑化し、子供の誘惑、拉致事件が時々発生している。これらの社会環境がもたらした危機に対して、青少年たちは防備と自己保護の意識が欠けている。特に際立っているのは、社会治安と交通安全の面である。青少年は生活常識と経験が欠けて、家庭と学校教育は系統的な指導が欠けている。

●現代化危機

現代社会にはいたるところにハイテク製品が存在し、人々はそれに依存している。しかし、もしハイテク製品が止まってしまうと私たちはどうしたらいいのか？ 例えば、リフトが停電のため突然止まったり、車の中に閉じ込められたら……

青少年は、これらのハイテク製品の特性を十分理解したうえで、突発状況に対応できるようにトレーニングすべきである。

■海外の状況

日本は青少年安全教育の指導体系を整備している。「教育現場管理マニュアル」「防犯教育チャレンジプラン」「子供の安全マップ」などの危機処理の指導教材がたくさんある。ロシアは全国60地域の学校では実験科目「私の選択」を設けて、学生の独立のために生活様式、環境と未来の職業を選択する能力を育てる。即ち、以下に自分の人生を選択するかを通じて、学生の危機感意識を育成する目的である。

アメリカ連邦教育省長官諮詢委員会は、早くも1983年に「国家は危機の中で、教育改革を実行しなければならない」白書を発表し、アメリカの危機は教育からと指摘した。盛世の中でも危機感を持つ精神はわが国が学ぶべきである。

■事業紹介

事業時期 2008年5月～2010年5月
事業基礎 公益活動
事業範囲 全国
参考対象 全国の青少年
事業形式 宣伝教育事業、実践事業
事業目的 ①青少年、保護者及び社会各界の危機防備意識をきょうかする。
②青少年危機処理能力を向上する。
③社会の安定の安全を促進し、わが国の青少年素質教育を推進する。

以下略

京都府医師会指定学校医制度 単位取得講演会のお知らせ

第16回 子どもの心とからだ懇話会

とき：10月24日（土）午後2時～4時半

ところ：京都府医師会館 4階 404～406会議室

テーマ：「5歳児健診とほめ上手の子育て風土つくり」

話題提供 1. 「5歳児健診（京都府年中児発達サポート事業）について」

京都府中丹広域振興局健康福祉部部長 中丹東保健所長 弓削マリ子氏

2. 「保護者向け支援メニュー『ペアレント・トレーニング』について」

京都府中丹東保健所 医務主幹 全 有耳氏 他

京都小児科医会 学術講演会

とき：10月24日（土）午後5時

ところ：京都国際ホテル2階 （中京区堀川通二条城前、TEL 222-1111）

学術情報

特別講演 「小児輸液療法のトピック－経静脈補液と経口補水療法の実際について－」

西神戸医療センター小児科 医長 上村 克徳氏

第73回 全国学校歯科保健研究大会

とき：10月29日（木）～30日（金）

ところ：ウエスティン都ホテル京都（東山区三条けあげ、TEL 771-7111）

主題：歯・口の健康つくりの総合的展開を目指して

第1日 • 基調講演 • アトラクション • シンポジウム • ポスター発表

• 自由集会 • 懇親会

第2日 • 実践発表 • 領域別研究協議会、報告 • 全体協議会

第8回京都小児科医会 感染症研究会

と き：10月31日（土）午後4時半～6時半

ところ：ホテル グランディア京都 5階 「古今の間」

（下京区烏丸通塩小路下ル、京都駅ビル内 TEL 344-8888）

学術情報

新型インフルエンザ外来診療の実際と問題点－京都と神戸の経験から－

「新型インフルエンザ流行拡大期に診療を行って

－発熱外来の問題点と入院診療上の注意－」

京都市立病院感染症内科 部長 清水 恒広氏 他1題

特別講演 「新型インフルエンザの疫学とウイルス学的特徴」

新潟大学大学院医歯学総合研究科

国際感染医学講座公衆衛生学分野 講師 齋藤 玲子氏

参加費 1,000円（コ・メディカル、研修医を除く）

京都府医師婦人会 講演会

と き：11月5日（木）午後2時～4時

ところ：京都府医師会館（中京区御前松原角）

テーマ：「新型インフルエンザ」

－かからない。重くしない。広げない。－

講師：京都市立病院感染症内科 部長 清水 恒広氏

申込み締切日 10月30日（金）

鈴木喜美子（FAX 314-2385） 山本千賀子（FAX 841-0820）

第58回近畿医師会連合学校医研究協議会総会

と き：11月29日（日）午前10時30分～午後3時10分

ところ：大阪府医師会館 2階大ホール（大阪市天王寺区上本町2-1-22）

目 的：近畿2府4県の学校医の地位向上を図り、学校保健に関する学術研究を行い、
もって地域保健の推進に寄与する。

申込み締切日 10月26日（月）

FAX 315-5290（京都府医師会地域医療課まで）

日本小児科学会

感染症・予防接種に関する市民公開フォーラム

と き：12月5日（土）午後1時～4時半

ところ：京都アバンティホール

（南区東九条西山王町31 アバンティ9階、TEL 671-8188）

テーマ：「子どもを感染症から守ろう」

講師：国立感染症研究所感染症情報センター第三室長 多屋 馨子氏 他

第5回 常任理事会

平成21年10月3日
於 事務局

出席者 長村会長、奥村・平位副会長、林専務理事、竹内・福持・大久保・杉本各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、星谷・鈴木各耳鼻咽喉科専門医会理事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 色覚相談 9/8、9/15、9/29
市内学童、各々 2名、2名、1名
2. 京都市学校保健会第2回表彰委員会 9/8
内科2名、耳鼻科1名、眼科2名の表彰者決定
3. 精神衛生研究会 9/10 10名参加
「発達障害の豊かな世界」
4. 右京支部会 9/12 21名、弁慶にて
5. ワンポイント相談 9/24
中1女子、計算力の欠如、学習障害ではないと結論
6. 京都市学校保健会第2回常務委員会 9/29
2.の決定承認など
7. 京都市こころの健康増進センター思春期・青年期精神保健ケースマネージメント事業運営検討会議
9/29 杉本出席 今月号参照
8. その他 10/2
京都市HIV感染症対策協議 林出席

<協議事項>

1. 新型インフルエンザについて
新型インフルエンザワクチン接種の取り組み方
2. 全国学校保健・学校医大会参加者について
長村、奥村、平位、林、星谷、鈴木、新井、川勝の参加
3. その他
H22.3.6 の感染症講演会の演題について

<関連学会・各種協議>

1. 京都市学校保健会健康教育シンポジウム
10/6 (於) 総合教育センター
2. 精神衛生研究会 10/8
3. 京都市小学生陸上競技記録会
10/12 長村、奥村の出務
4. 腎臓相談 10/13
5. 色覚相談 10/13
6. ワンポイント相談 10/22
7. 第73回全国学校歯科保健研究大会
10/29 (於) ウエスティン都ホテル京都
8. 第61回教育功労者表彰式典
11/15 (於) 京都アスニー
9. 第6回常任理事会 11/7 2:00 p m ~

